

SAGA2024 が チャレンジする新しい取り組み



佐賀から変えます。

リアルアスリート・ピクトプロジェクト

実在するアスリートをピクトグラムに



ナイトゲーム

観戦機会の幅を広げるナイトゲーム開催



伴走者等へのメダル授与

競技を支えるかけがえのないパートナーとともに、喜びを分かち合う



特集

開幕まで1年

SAGA 2024

国スポ・全障スポ

新しい大会へ 準備着々



特設サイトはこちら

国スポ 2024 10/5(土) ▶ 10/15(火)

会期前実施競技 (9/5(木) ▶ 9/17(火) 9/21(土) ▶ 10/1(火))

正式競技 …… 37 競技 特別競技 …… 1 競技 公開競技 …… 7 競技

デモンストレーションスポーツ …… 28 競技

全障スポ 2024 10/26(土) ▶ 10/28(月)

正式競技 …… 14 競技 オープン競技 …… 8 競技



エンターテインメント性の高い式典演出

※佐賀県は、SAGA2024の特設サイトで大会に関するさまざまな情報を発信しています。ぜひご覧ください。

大会本番での活躍にとどまらず、さらに先を見据え、世界に挑戦する佐賀ゆかりのトップアスリートの育成などを目指しています。今年5月にオープンしたSAGAアリーナについても、スポーツに限らず、新時代のエンターテインメントアリーナとして、コンサートやMICE(マイス)など幅広い活用を期待しています。

大会の開催決定に向けては、紆余曲折もありました。当初、佐賀県の国スポ・全障スポは2023年で決まっていたのですが、誰のせいでもない、コロナ禍の影響により延期になった鹿児島県大会を23年、佐賀県大会を24年に開催するということで、苦渋の決断で1年の延期を受け入れました。史上初めて2年連続での九州開催となることをきっかけに両県の絆を深め、スポーツだけでなく様々な分野での交流が広がっています。また、佐賀県は、鹿児島国体期間中、当初23年に地元佐賀で大会本番を迎えるはずだった高校生たちの活躍を多くの人に伝えるため、競技の動画配信にも取り組みます。

年配の方なら、覚えていらっしやることでしょう。47年前の1976(昭和51)年、佐賀県で若楠国体が開かれました。自分はまだ小学生でしたが、開会式のマスゲームに剣道部の一員として参加したことや、地元・白石町の社会体育館でフェンシング競技を観戦したことを覚えています。スポーツの熱気や素晴らしい感動を体感できる祭典が、ほぼ半世紀ぶりに佐賀の地に巡ってきます。

ただ、その中身については、最初の国スポとなるだけに、これまでの国体とは大きく変わりそうです。佐賀県は、人間の根源的な喜びを生み出すスポーツのチカラを地域づくりや人づくりに活かしたいと、「する」「観る」「支える」の三つの要素を意識しています。開閉会式を選手たちも観客も楽しめるエンタメ性の高い式典にするほか、観戦機会の幅を広げるナイトゲームを一部競技に採用。全障スポで競技を支える伴走者にもメダルを授与することを決めるなど、チャレンジする新しい取り組みを次々に発表しています。

また、県は今回の国スポ・全障スポを一過性の大会にしないことも意識しています。2018年度からSAGAスポーツプラザ(SSP)構想を進めています。

スポーツの祭典 半世紀ぶりに佐賀へ

佐賀県が舞台となる日本最大のスポーツの祭典「SAGA2024 国スポ・全障スポ」が近づいてきました。国体の愛称で親しまれてきた国民体育大会が、国民スポーツ大会へと変わる最初の大会で、1年後の10月5日(会期前競技は9月5日から)の国スポ開幕を見据え、着々と準備が進められています。メインメッセージは「新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。」今回の特集では、10月7日に鹿児島県で始まる特別国体・特別全障スポの見どころとともに、大会本番に向けた取り組みを紹介し

サガンティア (ボランティア) の募集・養成 する・観るを「支える」6,000人



佐賀県は、大会を支えるボランティアの皆さんについても、新しい姿を目指しています。それが Sagantier! (サガンティア)。サガンティアは、「SAGA (佐賀)」と「Frontier (フロンティア)」を合わせた言葉です。佐賀県はサガンティアに「県民の皆さまをはじめ、多くの方々と一緒に大会をつくり上げ、佐賀から新たなスポーツシーンを切り拓く」という意味を込めました。佐賀での開催は約50年に一度だけ。サガンティアは大会を支える大切な主役のひとりです。さあ、一緒に新しい大会をつくりましょう! と呼び掛けています。

サガンティアの募集人員6000人の内訳は、国スポの開・閉会式サポーターが1700人、全障スポの開・閉会式や競技会などで会場誘導や競技補助などを担う全障サポーターが3500人、国スポ競技会等サポーターが200人、手話や要約筆記を行う情報保障サポーターが600人。応募締め切りは2024年2月末です。



※サガンティアの登録申し込みは、WEBや郵送またはFAX (0952-25-7495) で受け付けています。
※各市町でも募集していますので、詳しくはHPをご覧ください。

リアルアスリート・ピクトプロジェクト



実在するアスリートのシルエットが大会ピクトグラムに

ピクトグラムとは、イラストや図を使い、見ただけで意味が伝わるように作られたマークのことです。1964年の東京五輪をきっかけに、広まったと言われています。SAGA2024では、スポーツの魅力や感動を最大限に伝えるツールとして、佐賀県内外で活躍する実在のアスリートのシルエットを元に大会ピクトグラムを制作する「リアルアスリート・ピクトプロジェクト」に取り組んでいます。

アスリートの個性を知るほど、感動が深くなるのがスポーツの面白いところ。特設サイトでは、そのモデルとなったアスリートのプロフィールやコメントを順次紹介しています。

フェンシングのピクトグラムのモデルになっているのは、SSPライジングアスリートであり、SAGA2024での活躍も期待される古田育男選手(中野建設)です。古田選手のピクトグラムの元になっている写真は、「フレッシユ」という技を繰り出している瞬間。相手の懐に飛び込んでいく躍動感あふれるシーンです。「SAGA2024では、チームをけん引して優勝に貢献したい」と語る古田選手。ほかのアスリートたちも競技やSAGA2024に向けた熱い思いをピクトに込めていますので、ぜひチェックしてみてください。

「国体」から「国スポ」へ。 すべての人に、 スポーツのチカラを。

プロジェクト IDEA2024



国体から国スポに変わる今、みんなで何ができる？



「プロジェクトIDEA2024」は、県民の皆さんがそれぞれ思うスポーツらしいアイデア、スポーツだからできるアイデアを募集・実現させ、「前例のない新しい大会」をみんなでつくるというプロジェクトです。

アイデア募集は今年9月末が締め切りとなりますが、これまで寄せられた案について2回の審査会が行われ、既に実現されたアイデアもあります。例えば、第1回審査会で選ばれたアイデア「スポーツ漫画を活用した体験機会の創出」。アイデア発案者は、白石町で赤身肉専門店「TOMMY BEEF」を営む吉原さんです。その実現の第一歩として、よりスポーツの魅力伝えるべく、1回目の国民スポーツ大会にちなみ、さまざまな競技のスポーツ漫画の第1巻計100冊が、佐賀県庁新館地下1階のスポーツ情報発信スペース「SAGATRACK (サガトラック)」に設置されています。このアイデアに関しては、市町の図書館や他の公共施設などにも広がりをもっています。

スポーツだからできる 2024個のアイデアを 募集・実現へ

「国体」から「国スポ」に変わる、いまだからこそできることは何か。 SAGA2024 がチャレンジする新しい大会の取り組みを紹介します。



SAGA2024 イメージソング Batons ~キミの夢が叶う時~

Batons ~キミの夢が叶う時~

歌唱/ 鷺尾伶菜
作詞/ 326 作曲/ 千綿偉功

1番

キミの夢が叶う時に 僕の夢も叶うよ
それは 終わりのない 暗く長い旅路
近づいても 近づいても 『夢』 はまた逃げてく
どこか恋みたいで...
まるでためすように「苦しさ」と「楽しさ」がとけた日々をくれる

結果(こたえ)が出せずに... でも諦めきれずに...
キミの華が開く季節は きっと やって来るから

こぼれたキミの涙がいつか羽になれ!!
遠く離れていても背中を押したくて...
あふれるキミの笑顔がいつか見たいから
「がんばれ!」と心を飛び出したこの声が届いてほしい



続きはこちらから

県出身アーティストが担当 いろんな場面で活用を

「キミの夢が叶う時に 僕の夢も叶うよ...」。サガン鳥栖のホームゲーム終了後や、佐賀空港にお迎えに行った時など、日々の暮らしの中で耳を澄ますと、「あっ、この歌また流れている」と思うときがあります。人気が高まってきているSAGA2024のイメージソング「Batons ~キミの夢が叶う時~」です。

SAGA2024では、佐賀県出身のアーティストが集い、みんなの思いを詰め込んだイメージソングをつくりました。唐津市出身の歌手鷺尾伶菜さんがボーカルを担当し、佐賀市出身のイラストレーター326(ミツル)さんが作詞を、同じく佐賀市出身のシンガー・ソングライター千綿偉功さんが作曲を手掛けています。

この曲にはアレンジバージョンもあります。「ピアノ」「オルゴール」「ロールプレイング」「ジャズ」「ロック」「EDM」「ロビート」の6種類で、販売用としての複製を行わないことなどのルールを守れば、SAGA2024HPからダウンロードして利用することができます。佐賀県は「スポーツシーンのみならず、会議や各種イベントなどさまざまな機会において活用ください」と呼び掛けています。

さあ「双子の大会」鹿児島へ



特別国体・特別全障スポでの健闘を誓う選手・役員たち = 9月7日、佐賀市文化会館



競技ごとに整列して決意表明した

佐賀県選手団にとって、SAGA2024に向けた試金石となる特別国民体育大会・特別全国障害者スポーツ大会が10月7日、鹿児島県で開催されます。新型コロナウイルスの影響で3年ぶりの開催となった昨年の栃木国体で佐賀県は天皇杯順位21位に躍進しており、今回は10位以内を目標に掲げています。出場する選手たちが健闘を誓い合った県選手団結団式（9月7日・佐賀市文化会館）や競技力強化の現状について紹介します。

佐賀県は、県内での国スポ・全障スポの開催決定を受け、トップ選手の発掘・

天皇杯 10位以内を目標に来年に弾みを



県旗を掲げる伊勢川華愛選手（右）、杉谷稜斗選手（左）

育成やスポーツ文化の裾野の拡大を目指す「SAGAスポーツピラミッド（SSP）構想」に沿って、競技力向上に努めてきました。その成果は着実に現れてきています。今回の鹿児島国体に向けた九州ブロック大会で、佐賀県勢は25競技67枠の代表権を獲得。前回の令和4年度の57枠の代表権から大躍進し、10枠増えました。さらにストリート競技（全県、全種別出場）を合わせた34競技549人で鹿児島国体にチャレンジします。

全障スポの九州ブロック予選会では、ソフトボール（知的障がい）とバレーボー

ル（知的障がい男子）が見事優勝し、かごしま大会出場を決めました。両競技とも、5年前まで県内にはチームすらない状況でしたが、「SAGA2024に出場しよう！」と選手の発掘から始めてチームをつくり、一戦一戦経験を積みながら着実に実力をつけてつかんだ優勝です。ソフトボールは初出場、男子バレーボールは2年連続の出場です。個人競技も今までの大会の約2倍の45人の出場で、佐賀県として過去最多71人の選手を鹿児島に派遣することになりました。

県選手団結団式では、選手たちが競技ごとに「大好きな佐賀に恩返しして、来年の国スポに弾みをつける」（競技として）史上最高得点を取りたい」などと決意を語りました。県スポーツ協会会長を務める山口祥義知事は、佐賀、鹿児島両県が連携して、史上初の2年連続九州開催となる「双子の大会」の盛り上げを図っていることをあらためて強調し、選手たちにエールを送りました。県旗が国体のポウリング成年女子の伊勢川華愛選手（佐賀県職員）と、全障スポの卓球に挑む杉谷稜斗選手（高志館高）に渡され、最後は選手団全員で記念撮影に臨み、鹿児島県での大会本番に向けて士気を高めました。

国体チャンネル 佐賀県応援サイトを開設

ターゲットエイジの活躍を動画配信

誰のせいでもなく、コロナ禍の影響で、2023年の開催が2024年に変更となった佐賀大会。2023年に地元で大きな声援を受けながら活躍することを夢みて、努力を続けてきた佐賀県のターゲットエイジ（少年種別の最高学年）の活躍を多くの方に届けたい！という思いから、（公財）日本スポーツ協会が運営する「国体チャンネル」に「佐賀県選手応援サイト」を開設しています。北海道総体で躍動した柔道やレスリングなどの選手の活躍も期待されます。実況入りのライブ配信だけでなく見逃し配信（アーカイブ）でも試合を見ることができまので、ぜひご覧ください。

特別国体 2023 10/7(土) ▶ 10/17(火)
会期前競技 (9/16(土) ▶ 9/24(日))

特別全障スポ 2023 10/28(土) ▶ 10/30(月)



配信計画はこちら



動画視聴はこちら